

# やまとくらいてうを記念する会

私も参加したかった

櫛田 ふき



腰痛で動けなかつたとはいえ、バスツ  
アーに参加できなかつたことをおわびい  
たします。マンガ『平塚らいでう物語』  
(新婦人しんぶん好評連載) の竹中らん

こさんを励ましたかつたし、宝井琴桜さ  
んには日本女子大での講演が今も好評な  
のを告げたかつたし、山田洋次夫人よし  
恵さんと目白のらいでう学習グループに  
は山やま話がたまつてゐる。

(世話人代表)

## らいでうのふるさと

小林登美枝



井上美代さん(新婦人会長)にはニュ  
ーヨークでの世界女性会議準備委員会の  
様子を聞きたかつたし、手術後も相変わ  
らず元気な小笠原貞子さん(前参院議員)  
を皆さんに紹介したかつた。井出弘子さ  
ん(翻訳家)も珍しい。母上は昔、南湖  
院の高田畠安院長のおかげで命拾いした  
と聞いた。早杜子さんと和子さん、お二  
人とも夫君は大学教授の加藤栄一氏(同  
名異人)、それぞれ私とは旧知で、たち  
まちお仲よしに。らいでう忌とあつては、  
はずせぬ小林登美枝さんに折井美耶子さ  
ん(女性史研究家)。多彩な顔ぶれ、豪  
華版だつたバスツアー。私もお仲間入り  
したかつた。

明治末年、茅ヶ崎海岸の美しい風光を  
背景に、らいでうとその周辺の人びとの  
青春パワーの全開がそこにあつた。大正  
デモクラシーの上げ潮が時代の足もとに  
近づくとき、それを先取りした青鞆社の  
女たちは、茅ヶ崎の海邊で「明治」を見  
送り、「大正」を迎えている。

の奥に秘められていた。  
バスツアーの一行の中で、もし、らい  
でうが存命ならば、この大勢の女性たち  
の茅ヶ崎行にどんな思いを抱いたことか  
と、私はしきりに想つたことだつた。

茅ヶ崎はしかし、らいでうにとつて甘  
美な追憶の地ばかりではない。胸を病む  
夫を介護しながら、初めて母の役割と原  
稿書きの大へんな生活に没頭した苦闘の  
土地でもある。母性保護論争の最初の一  
弾となる「母性の主張について与謝野晶  
子氏に与う」を執筆したのも、茅ヶ崎の  
人參湯の離れであつた。(常任世話人)

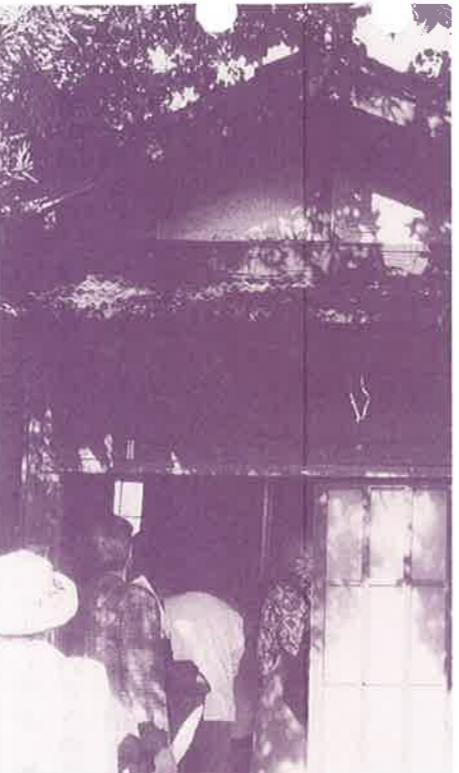
# 茅ヶ崎バスツアー

## らいとうの足跡を訪ねて



茅ヶ崎では川添隆行会長をはじめ皆さんの歓迎をうけて

らいとう忌前日の五月二十三日、茅ヶ崎バスツアーカーを行い、五十一名が参加しました。春秋苑（川崎市）での昼食のあと、茅ヶ崎・らいとうの会の協力で、らいとうゆかりの人参湯離れや、もと東洋一の結核療養施設南湖院付近を散策しました。



荒れはてた人参湯の離れ



緑多い春秋苑の奥村家の墓

平塚らいとうを記念する会では、らいとう忌前日の五月二十三日、らいとうの足跡を訪ねる茅ヶ崎バスツアーを行いました。春秋苑での昼食のあと、茅ヶ崎・らいとうの会の協力で、らいとうゆかりの人参湯離れや、もと東洋一の結核療養施設南湖院付近を散策しました。



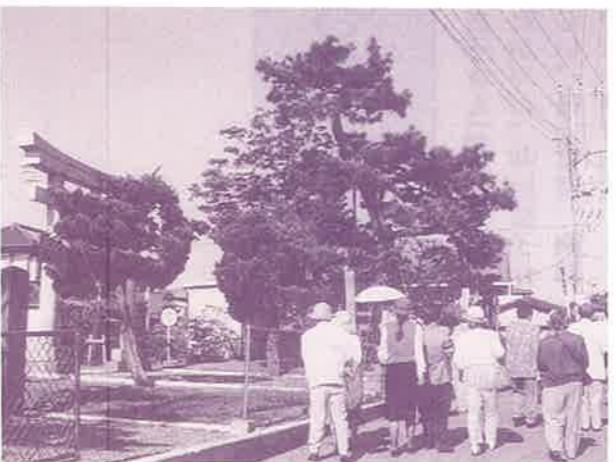
江ノ島の見える海岸

**人参湯離れ**

らいとうと博史が前年十二月に生まれた長女曙生（あけみ）と親子三人で、一九一六年夏から翌年夏まで住んだ人参湯の離れは、荒れ果てていましました。四畳半三部屋と六畳一部屋が横に並び、その先にトイレが一つ、二部屋に簡単な流しが付いていました。のちに増田牛乳店となり、「増田」の表札がかけてありました。二人がよく散歩した海岸には、江ノ島まで海ぞいに走れるサイクリングロードがありました。

**茅ヶ崎の友**

茅ヶ崎・らいとうの会の方々には、ビデオまで制作しての南湖院庭内の歴史解説や、茅ヶ崎の銘菓十種類をとりそろえてのお茶の接待、途中で帰宅する人を駅まで車で送るなど、いたれりつくせりのサービスをしていただきました。（下の写真は茅ヶ崎公民館前で）



南湖院へ向かう通称「病院道」

**茅ヶ崎界隈**

茅ヶ崎・らいとうの会事務局スタッフの案内と解説で散策。らいとうが独身時代に下宿した加藤林造さんの家は、四月末に解体され、改築中。博士が入院した南湖院は今老人ホーム「太陽の郷」となり、プライバシーを守るため、大勢での見学はできませんでした。



日影茶屋の会席料理を楽しむ

### 墓参と会席

新宿からバスで春秋苑へ。火曜は定休日でしたがが、門を開けてもらい、墓前に花と線香、日本酒と煙草を供えておまいりました。

「奥村家墓」の笹寿司や賀茂なすの旨煮、新茶仕立の椀物など、季節感あふれる献立を楽しみ、歴史を刻んだ建物を背景に中庭で記念撮影しました。

日影茶屋では、葉山鰯の文字はらいとうの筆跡。

の笹寿司や賀茂なすの旨煮、新茶仕立の椀物など、季節感あふれる献立を楽しみ、歴史を刻んだ建物を背景に中庭で記念撮影しました。

## 茅ヶ崎バスツアー

### アンケートに寄せられた声

- ◎天候にも恵まれ、大へん楽しかった。
- ◎ゆきとどいた配慮、種々の資料など準備の苦労がしのばれた。出発時間は厳守。
- ◎新宿の集合場所がはつきりせず、迷った。旗など目印があればよかったです。
- ◎櫛田先生とご一緒に魅力のツアーダつたが、参加されず残念。お大事に。
- ◎バスの中での小林先生、折井先生のお話がよかつた。このような気軽な学習会がしたい。質問の時間がなくて残念。
- ◎日影茶家の建物、庭、料理がすてきだつた。一人では来られないし、よかったです。
- ◎らいでうの住んでいた家が残っていて感激。ここに記念館を建てたらどうか。
- ◎らいでうを生身の人間として身近に感じることができた。不勉強も自覚。
- ◎京都や長野からの参加者もあり、自己紹介はやはりあつた方がよかつた。
- ◎地元の人たちの案内で、班を作つての散策は楽しく、海も見られてよかつた。
- ◎地元の人たちとの話し合いの場がほしかつた。帰りの時間がはつきりしなかつた。



### 小松ときさん励ます会

#### 阪神大震災で東京へ転居

関西にあつた平塚らいでう遺品保存会の元会長で、一九七二年、全国に先がけて「らいでうをしのぶ展」を神戸で開催された小松ときさん（九十歳）が、阪神大震災で被災、東京に転居されました。



当会常任世話人の  
升井登女尾（ますい  
とめお）さんが三月  
二十七日、逝去され  
ました。八十歳。

### 升井登女尾さん逝去 ご冥福を祈ります

た。全員の記念写真は一回でよい。  
◎太陽の郷の歴史がわかつてよかつた。

◎宝井琴桜さんの講談をほんの少し車中で聞きたかった。

◎次は塩原温泉に行きましょう。

日本母親大会実行委員長として多忙なか、短歌や油絵など趣味も多彩で、茅ヶ崎バスツアーもスケッチを楽しもうと倒れる直前までツアーナー準備の会議に出席していました。ご冥福を祈ります。

#### らいでうグッズ紹介

- \* 直下型の激震で、ベッド脇の大型本棚がベッドを飛び越えて倒れたため、小松さんは本当に埋もれましたが、無事でした。五月十三日午後、らいでうの会事務局と旧友十一人が小松さんを励まそうと西荻窪・こけし屋で、ささやかなつどいを持ちました。
- \* 一九九五年度分 個人一口三千円 団体一口五千円（振込は東京五一五五三〇

#### 会費納入のおねがい

- 四六 平塚らいでうを記念する会